

地域のしくみづくり検討・検証委員会 第6回会議記録

○日 時 平成24年2月20日（月）13時30分～14時30分

○場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン

○出席委員

委員長	日高 昭夫	副委員長	関谷 昇
委員	長江 曜子	委員	松川 正
委員	文入 加代子	委員	平川 茂光
委員	恩田 忠治	委員	荒 久美子
委員	岩橋 秀高	委員	榎本 孝芳
委員	河野 静雄		※欠席1名

○傍聴者 8名（途中入場1名含む）

○事務局

市民担当部長	小沢 邦昭	市民担当部審議監	小菅 恒夫
地域振興課長	鈴木三津代	協働推進課長	佐藤 亮一
地域振興課	関 聡	地域振興課	山内 将

○議 題

- （1）地域の仕組みづくり検討経過報告書（案）について
- （2）その他

※配付資料 地域の仕組みづくり検討経過報告書（案）

○ 会議経過及び概要

1 開 会

（事務局）

地域のしくみづくり検討・検証委員会、第6回会議を開始する。
委員会には委員の過半数が出席しており、成立している。（設置要綱第5条）

（委員長）

委員長の挨拶

- ・本日の会議では、地域の仕組みづくり検討経過報告書を取りまとめる。

（事務局）

- ・本日7名の方から傍聴の希望がある。入場の許可についてお願いしたい。

（委員長）

- ・傍聴者7名の入場を承認してよろしいか。（委員了承）
- ・入場を許可する。

2 議 題

(委員長)

- ・議題（１）地域の仕組みづくり検討経過報告書について、事務局の資料説明を求める。

(事務局)

地域の仕組みづくり検討経過報告書（案）を説明する。

- ・この報告書は、中間答申以降、この委員会が「地域の仕組みづくりの進め方」について協議した結果を中間報告書に追記する形で作成する。

今後の進め方について説明

- ・この委員会の委員さんの任期を１年間延長させていただきたい。
- ・(仮) 町会・自治会と市とのパートナーシップのあり方検討委員会を新たに立ち上げ、まずはスタートさせる。構成としては、地区長１２名、学識経験者５名、職員２名を予定している。
- ・地域のしくみづくり検討・検証委員会は、新たな委員会の進捗状況をみながら再開する。
- ・それまでの間、事務局では、地域活動の実態把握や事例研究などをさせていただき、委員会に情報提供できるよう準備を進める。

(委員長)

- ・中間報告書以降、追記する部分のエッセンスとポイントについて及び来年度の進め方について事務局から説明があった。

(委員)

- ・任期の延長という説明があったが、これは事務局の一方向的な提案なのか。

(委員長)

- ・委員の任期延長は手続き上、再委嘱ではなく、現行規定で行うものなのか。

(事務局)

- ・２４年度からモデルの試行というスケジュールで進めてきたが、変更を余儀なくされたこともあり、規定の運用の中で、委員の任期を１年間延ばさせていただきたい。来年度もこの体制でやっていただけるのかどうか、また、メンバーを増やすことなどに対してご意見をいただきたい。

(委員)

- ・地区長が参加する会議は、この会議の分科会として設置されるのか。
- ・この委員会と地区長が中心となる委員会とはどのような関係なのか。
- ・地域のしくみづくり検討・検証委員会にも地区長が入ったほうがよいのでは。

(事務局)

- ・町会・自治会と市との関係のあり方の検討と地域の仕組みでは、テーマが違うので、別に委員会を立ち上げることになると考えている。
- ・地域のしくみづくり検討・検証委員会でのテーマは、町会・自治会をはじめ、その他様々な団体や人が横につながることで、地域のコミュニティ力を発揮していくための仕組みを検討することだと考えている。

(委員)

- ・町会・自治会の委員会では、市政協力委員の見直しというものが課題になってくるので、この委員会とはテーマが違う。
- ・来年度は、この委員会にも地区長全員ではなく、何人かは入ったほうが良い。

(委員)

- ・市政協力委員制度をどうしていくのかというのが地域の最大の問題だと思う。
- ・町会・自治会のあり方を先に議論しないと地域の仕組みは進まないと思う。

(委員)

- ・市政協力委員が根幹を成しているので、どこかで合流させた方が良い。
- ・松戸の歴史を変えることにもなるし、松戸の将来もかかっているので、覚悟を持ってやらないとならない。

(委員)

- ・町会・自治会組織を最大限に考慮した提案だと考える。まずは、町会・自治会のあり方を検討して、それらの結果を地域の仕組みづくりの委員会に取り込むという方向性には賛成である。

(委員長)

- ・市政協力委員制度は全国的には多く見られる。この区域では確かに珍しいスタイルで、それが50年以上続いてきたのは一つの特色である。
- ・近隣市が市政協力委員制度を転換していったというのと共通な背景があるように思う。転換期にちょうどきているのだと考える。
- ・地域の仕組みづくりを考えていくときに、市政協力委員制度を転換する必要がないという前提で議論を進めてきたことが認識不足であったし、誤解を招いたところでもあった。
- ・市政協力委員制度のあり方を検討することと並行して地域の仕組みづくりを進めていかないと着地点が見えない。この制度の検討は重要な問題であるし、議論になったのは良いチャンスだと思う。ぜひ、皆さんの力でいい仕組みに定着できるように進んでいけばよいと考える。

(委員)

- ・市政協力委員制度も50年も続いた制度なので良いところもあるが、制度疲労もある。松戸も新しいまちとしてという意味合いは常にみんなが共有している。
- ・制度の見直しは誰も言い出すことができなかつたし、チャンスもなかつた。そういう意味ではいい機会だと思うが、相当な抵抗はあると思う。

(委員長)

- ・この委員会で市政協力委員をどのようにするのかを直接話題にして協議するのは難しい。当事者の皆さんで議論いただいて、方向付けをしていただいたものをどのように仕組みに活かしていくのか、その協議の要が地区長さんたちになるのだと。そのような段取りだと考えている。

(委員長)

- ・私としても、せっかくここまで議論してきたのだから、このあとの継続も含めて、このままの体制で議論したほうがよいと考えている。さらに、市政協力委員は、別途の組織で議論していただいたものをこの委員会での検討に反映していただければ、より充実していくものと考えている。

(委員)

- ・今回の検討は短時間で進めてきたので、サロンの中身などもっと検討すべきことがたくさんあると思う。

(事務局)

- ・サロンの運営など、肉付けは十分に進めていくべきだと考えている。

(委員長)

- ・報告書については、本日の会議資料の形で検討経過報告を取りまとめることでよろしいか。(委員了承)

(委員長)

- ・今後の進め方については、いろいろな意見をいただきましたが、経過報告で提案させていただいたとおり、町会・自治会と市の関係については、市政協力委員制度の検証も含めて別の組織で検討していただきながら、その進行状況や実情の把握をこの委員会に反映していただくことで進めていくことでよろしいか。(委員了承)

(委員長)

- ・地域の中で市民が自分たちの住んでいる地域課題を解決するために、汗をかいたり、労力を提供したり、知恵を出したりする。そのような仕組みが地域に築いていく方向性については大賛成である。
- ・しかし、すぐにそのような仕組みが実現できるわけではない。実現に向けては、課題もあるので、実行可能な仕組みにしていくことを重視したい。

(委員)

- ・今回の取り組みは、国全体で取り組んでいるものであり、松戸が変わったことをやっているわけではない。今の流れだと解釈している。

(委員)

- ・この検討は国の政策であり、全国的な運動である。これらの仕組みは時代の要請でもあるので、進めるべきだと思う。これらの仕組みが進んだ際には積極的に協力していきたいと考えている。

(事務局)

- ・年度内に任期延長の手続きをとらせていただきます。
- ・正式な報告書も委員の皆さんの手元に届けたいと考えている。

3 閉 会